

豊島区景観資源

○豊島区景観資源とは

→豊島区景観条例第 26 条に基づいて、区民等に親しまれ、地域を特徴付ける景観を形成しているものとして区長が指定したものです。

(参考)豊島区景観条例第 26 条

<指定の対象>

- ・公共施設等
- ・建築物又は工作物
- ・樹木又は樹木の集団
- ・祭事、催しその他の行事

<指定の基準>

- ①区民等に親しまれ、地域を特徴付ける景観を形成しているものであること
- ②道路その他の公共の場所から容易に望見され、区民等が景観資源を共有できるものであること

○豊島区景観資源一覧(令和2年3月〇日現在)

指定第1号:雑司が谷鬼子母神の御会式万灯練供養(祭事、催しその他行事)

指定第2号:ふくろ祭り(祭事、催しその他行事)



※それぞれの景観資源の詳細は別紙をご参照ください。

○景観資源の活用

→地域の維持・保全活動や景観まちづくりに対する区民・事業者の更なる意識向上を図るため、景観資源の広報等を行っていきます。



おえしきまんどうねりくよう 雑司が谷鬼子母神の御会式万灯練供養

○雑司が谷鬼子母神の御会式万灯練供養は、雑司が谷を中心とする 20 以上の講社が、団扇太鼓などを叩きながら纏や万灯とともに練り歩き、鬼子母神堂へ参詣する行事です。本来は日蓮宗の祖日蓮の供養のためにその命日に行われるものですが、雑司が谷では、江戸時代から鬼子母神堂の祭として開催されています。鬼子母神堂へと続く道は、無数の灯を纏った万灯と太鼓の音で埋め尽くされ、多くの見物客を集めます。

○参詣の行列の一般的な構成は、先頭から順番に、提灯→勢いよく振り回される纏→リズムよく叩かれる団扇太鼓や両面太鼓→そして最後は万灯(写真中央奥)です。万灯はしだれ桜を模しており、多数の桜花が枝に結ばれています。何台もの万灯が秋の夜に浮かび上がる幻想的な光景を見ることが出来ます。

○講社とは地縁的な信仰団体を指し、御会式では講社ごとに万灯の準備などを行います。大人から子どもまで一緒に準備を行う中で、人々のつながりが形成されます。大人に面倒を見られていた子どもたちも、やがて講社の運営を担い、次の世代の面倒を見る側に回る。こうした人々のつながりの継承もこの営みの特徴です。

<基本データ>

- 所在地(開催地): 鬼子母神堂周辺
- 所有者(主催者): 御会式連合会
- その他: 毎年 10 月 16 日から 18 日の開催

※雑司が谷鬼子母神の「鬼」の字は一画目の点がない字を用います。



ふくろ祭り

○「御輿みこしの祭典」や「踊りの祭典」などで構成される計4日間のふくろ祭りは、延べ約100万人の集客を誇る区内最大のお祭りで、都内でも屈指のイベントです。この祭りの発祥は、池袋西口の4商店会(ロマンス通り、エビス通り、西一番街及び文化通り)が共同で開催した1968(昭和43)年に遡ります。現在は、商店会のみならず地元企業や学生ボランティア等が一丸となって、祭りを支え、継承しています。

○「御輿みこしの祭典」のクライマックスである”宵御輿よい大パレード”(上記写真)では、3,000人を超す担ぎ手が集まり、14基の大型御輿がスポットライトの中で揺れる光景は壮観です。国際交流御輿では外国人が飛び入り参加する光景も見られます。

○「踊りの祭典」の顔は、2000(平成12)年に始まった“東京よさこい”で、よさこいの本場である高知など全国から踊り手が集まります。高知県のよさこいをベースに郷土の民謡を取り入れながら、各チームが独自のアレンジを凝らし、華麗で迫力のある踊りを披露しています。

<基本データ>

- 所在地(開催地):池袋西口駅前広場、アゼリア通り等(開催日により場所が変わります)
- 所有者(主催者):ふくろ祭り協議会
- その他:毎年9月、10月の開催